

第7章 点検・保守

7.1 点検・保守項目リスト

7.1.1 点検項目リスト

各項目の説明については、それぞれの項目を参照してください。

以下の点検項目リストにあげた項目が正常に動作しないときは、お買い上げ店または当社にご連絡ください。

表 7.1 点検項目リスト

動作点検項目	点検時期
主電源スイッチ(漏電遮断器)の動作テスト	<ul style="list-style-type: none"> • 1回/1ヵ月 • 長時間連続して運転する前
温度過昇防止器の動作テスト	運転開始前

7.1.2 保守項目リスト

各項目の説明については、それぞれの項目を参照してください。

表 7.2 保守項目リスト

保守項目	時期
槽内の清掃	運転終了後
配電室の清掃	1回/2～3ヵ月
排気ダクト内の清掃	1回/2～3ヵ月
長期間使用しない場合の処置	長期間使用しないとき
ガラス管ヒューズの交換	ガラス管ヒューズが切れたとき
送風機軸受部へのグリスアップ	1回/1年
送風機部Vベルトの点検	1回/2～3ヵ月(配電室の清掃時)
ハンドルへのグリスアップ	1回/1年

7.2 主電源スイッチ(漏電遮断器)の動作テスト

警告



運転前に漏電遮断器の動作テストをして、正常に動作することを確認してください。

感電のおそれがあります。

1カ月に1回または長期間連続して運転する前に、主電源スイッチ(漏電遮断器)の動作をテストしてください。

主電源スイッチ(漏電遮断器)がONの状態、テスト用のボタンを軽く押します。テストボタンを押して、主電源スイッチ(漏電遮断器)のレバーが落ちれば正常です。

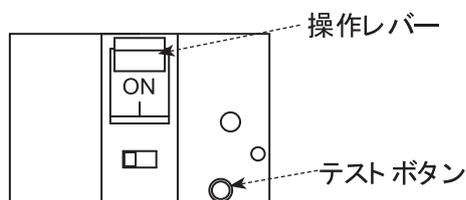


図 7.1 テストボタン

◆ お願い ◆

主電源スイッチ(漏電遮断器)のレバーが落ちると、レバーはONとOFFの中間の位置に止まります。電源をONにするときは、一旦レバーをOFF側に倒してから、ONに入れてください。

7.3 温度過昇防止器の動作テスト

 **警告**

! 運転前に温度過昇防止用の保安装置を適正に設定し正常に動作することを確認してください。

火災のおそれがあります。

運転開始前に、温度過昇防止器の動作テストを行ってください。

<手順>

- 1) 主電源スイッチ(漏電遮断器)を ON にします。
- 2)  ボタンを押します。
- 3) 温度過昇防止器の設定を槽内温度以下にします。

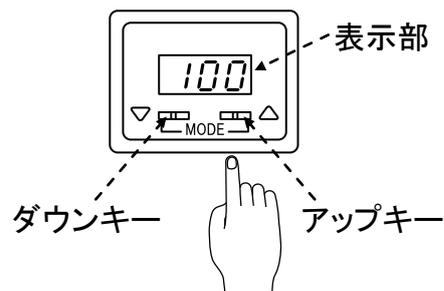


図 7.2 温度過昇防止器

- 4) 温度過昇防止器が正常な場合、トラブルランプが点灯し、ブザーが鳴り、アラームを示す画面が表示されます。
アラームが発生しない場合は、異常がありますので、お買い上げ店または当社にご連絡ください。

ケイホウ!	03/10
E06 オント`カショウ	

- 5) 温度過昇防止器の設定を元の値に戻します。
アラームを解除するには、一度  ボタンを押し電源を切ります。

7.4 槽内の清掃

槽の内面にほこりや不純物が付着していると、正確な試験結果が出ないおそれがあります。運転終了後に槽内を清掃してください。

注意



運転終了後は、槽内(試料、棚板、扉の内側、内槽)は高温になっていますので、槽内が十分冷めてから槽内を清掃してください。

<手順>

- 1) 扉を開きます。
- 2) 槽内をやわらかい布などで拭きます。
- 3) 扉を閉めます。

7.5 配電室の清掃

配電室は換気を行っていますので、ほこりがたまりやすく、ほこりの堆積によって漏電や接触不良をおこす場合があります。2~3カ月に1度、配電室を清掃してください。

警告



必ず一次側電源が OFF になっていることを確認してから清掃してください。
感電のおそれがあります。

<手順>

- 1) 一次側電源と主電源スイッチ(漏電遮断器)が OFF になっていることを確認します。
- 2) 配電室カバーの固定ねじをプラスドライバではずし、配電室カバーを取りはずします。
- 3) 配電室のほこりを掃除機などで吸い取ります。
- 4) 配電室カバーを元通りに取り付けます。

7.6 排気ダクト内の清掃

警告



排気ダクト(当社取り付けのダクトまたは貴社にて取り付けられたダクト)内の清掃を2~3カ月に1度必ず実施してください。

排気ダクト内で、空気中のゴミや試料から発生する蒸気が堆積した場合、排気による熱風で発火するおそれがあります。

<手順>

- 1) 排気口から排気ダクトを取りはずします。
- 2) 排気ダクト内をウエスで拭き取ります。
- 3) 排気ダクトを元通り取り付けます。

7.7 長期間使用しない場合の処置

■電源を切る

主電源スイッチ(漏電遮断器)をOFFにした後、一次側電源もOFFにしてください。

7.8 ガラス管ヒューズの交換

警告



ヒューズ等の交換や点検は適正な作業方法で実施してください。

やけどや感電、けがのおそれがあります。

長時間運転をするとガラス管ヒューズが劣化し、切れやすくなります。

ガラス管ヒューズが切れたときは、以下の手順で付属のガラス管ヒューズと交換してください。

切れたヒューズの容量を確認して、同じ容量のものと交換してください。

◆ お願い ◆

ガラス管ヒューズを交換してもまたすぐに切れる場合は、お買い上げ店または当社にご連絡ください。

<手順>

- 1) 主電源スイッチ(漏電遮断器)がOFFになっていることを確認します。
- 2) 配電室カバーの固定ねじをプラスドライバではずし、配電室カバーを取りはずします。

- 3) 切れているガラス管ヒューズを新しいものと交換します。
- 4) 配電室カバーを元通りに取り付けます。

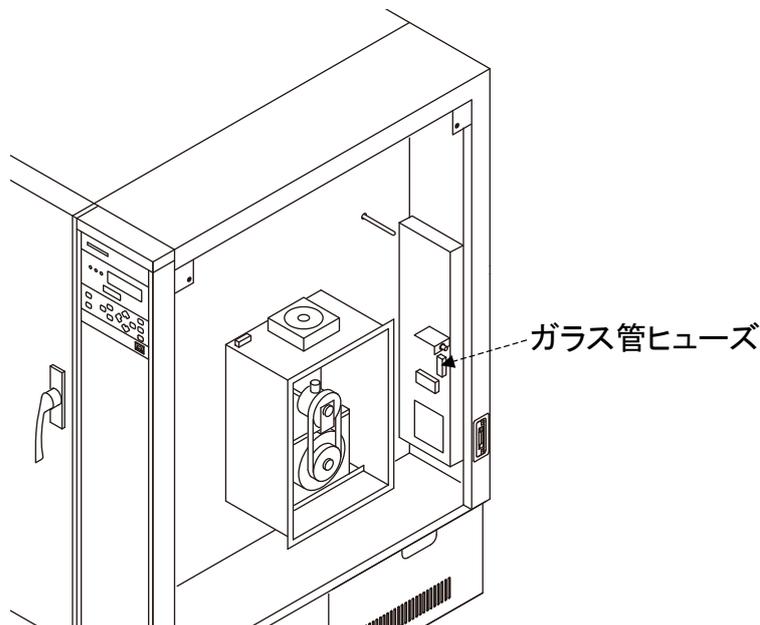


図 7.3 ガラス管ヒューズの交換

表 7.3 ヒューズ容量

		SSPH-102	SSPH-202
AC200V 仕様	3A	○	○
AC220V 仕様	3A	○	○
AC380V 仕様	2A	○	○
	3A	○	○
	15A	○	○

7.9 送風機軸受部へのグリスアップ

1年に1回行ってください。

補充用のグリスは、軸受部に装備しているグリスカップに8年分相当の量が封入されています。軸受部へのグリスの注入は、装置の運転を停止して配電室扉を取りはずし、手で送風機を回転させながら、ゆっくりとグリスカップのキャップを右方向(時計方向)へ約2回転してください。

グリスの注入量が多いと、過充填となり、ベアリングの発熱や焼付の原因になることがあります。キャップを回し過ぎないように注意してください。

使用グリス:スーパールーブ(油研工業製)

7.10 送風機部Vベルトの点検

配電室の清掃時に同時に点検を行なってください。

ベルトの中心を親指で押え、30mm以上のゆるみがあれば電動機を下に下げてベルトを張ってください。それでも調整できないときは交換してください。

使用ベルト:A型 23番 (JIS K6323)

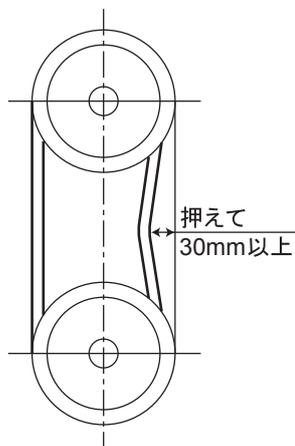


図 7.4 Vベルトの点検

7.11 ハンドルへのグリスアップ

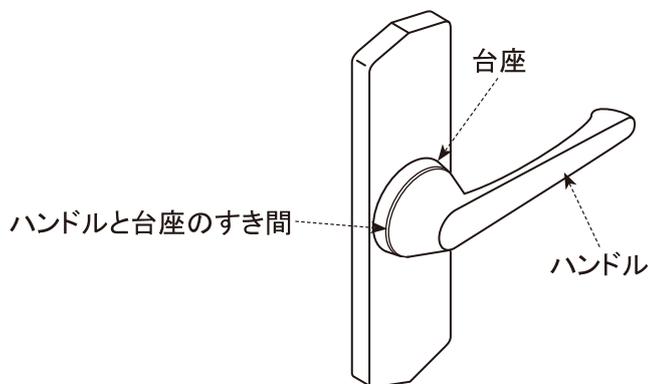


図 7.5 ハンドルへのグリスアップ

1年に1回行ってください。

ハンドルと台座のすき間へのグリスアップは、装置の運転を停止して行ってください。

グリス塗布後は、ハンドルを2回程度回してください。

使用グリス:スプレーグリス(ウレア系)

例. グリースメイト(呉工業製)

第8章 トラブルシューティング

8.1 警報とその処置

 警告	
	<p>主電源スイッチ(漏電遮断器)の一次側の処置をするときは、必ずお客様設備の電源開閉器を OFF にして非通電状態で行ってください。また、不用意に通電されることがないように処置してください。</p> <p>電源が ON の状態でトラブルの処置をすると、感電するおそれがあり、非常に危険です。</p>
	<p>配電室カバーを開けるときは、必ず主電源スイッチ(漏電遮断器)を OFF にしてから開けてください。</p>

本装置には、トラブルが発生するとブザーを鳴らし、その内容を画面に表示する自己診断機能があります。

表示されるトラブルの内容については、「**警報一覧**」に記しています。内容に対応する処置を施してください。

また、自己診断されないトラブルが発生した場合の処置方法については、「**故障とおもったら?**」に説明しています。処置を施しても装置が正常に動作しない場合は、お買い上げ店または当社にご連絡ください。

8.2 異常と警告について

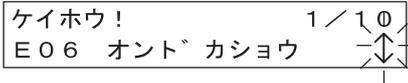
警報の内容には、異常と警告の2種類があります。

異常: 警報の原因が解除されても、自動的に通常の制御には戻りません。エラーメッセージに対応した処置が必要です。

警告: 警報の原因が解除されると自動的に通常の制御に戻ります。復帰後、確認画面に表示されるメッセージの手順に従うと警報発生履歴を消去できます。

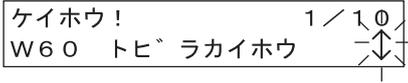
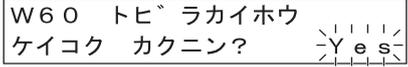
■異常の場合

<手順>

- 1)  ボタンを押します。
ブザーが停止します。
- 2) 計装の表示部に表示されているエラーメッセージを確認します。

- 3)  ボタンを押して、計装の電源をOFFにします。
- 4) 主電源スイッチをOFFにします。
- 5) 「[警報一覧](#)」を参照し、表示されていたエラーメッセージに対応した処置を施します。

■警告の場合

<手順>

- 1)  ボタンを押します。
ブザーが停止します。
- 2) 計装の表示部に表示されているエラーメッセージを確認します。

- 3) 「[警報一覧](#)」を参照し、表示されていたエラーメッセージに対応した処置を施します。
装置は自動的に通常の制御に復帰します。
- 4) 、 ボタンを押すと確認の画面が表示されますので、「Yes」を選択します。

- 5)  ボタンを押すと警報発生履歴が消去されます。

8.3 警報一覧

警報種類	警報表示	警報名称	内容	原因	処置
警告	W02 ジョウゲンヘンサ	温度上限偏差警報	槽内温度が設定されている値を上回ったので、装置は加熱制御を停止しています。(試料および装置保護のため送風機は運転を継続しています。またオプションの自動ダンパー装備時は、ダンパー開度を100%にします。)	槽内に設置されている試料からの発熱により槽内温度が上昇したか、警報値が低めに設定されています。	試料の発熱を減らしてください。また、警報値は槽内の設定温度+約10℃を目安に設定してください。槽内温度が警報値より下がれば装置は通常制御に戻ります。
異常	E00 オンドジョウゲン	温度上限絶対警報	槽内温度が設定されている値を上回ったので、装置は加熱制御を停止しています。(試料および装置保護のため送風機は運転を継続しています。またオプションの自動ダンパー装備時は、ダンパー開度を100%にします。)	槽内に設置されている試料からの発熱により槽内温度が上昇したか、警報値が低めに設定されています。	試料の発熱を減らしてください。また、警報値は槽内の設定温度より約10℃高めに設定してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。
	E01 オンドカゲン	温度下限絶対警報	槽内温度が設定されている値を下回ったので、装置は加熱制御を停止しています。(試料および装置保護のため送風機は運転を継続しています。またオプションの自動ダンパー装備時は、ダンパー開度を0%にします。)	換気量が多いため槽内温度が維持できず下降したか、警報値が高めに設定されています。	ダンパーの開度を小さくしてください。また、警報値を正しく設定してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。
	E04 カネツキジョウ	加熱器異常	加熱器の電流値が上昇して加熱回路配線用遮断器が作動したので、装置は運転および各制御を停止しています。	加熱器回路の短絡、あるいは過電流です。	短絡による過電流により、SSR が故障している可能性があります。主電源スイッチ(漏電遮断器)をOFFにしたあと、サービスへ連絡してください。
	E06 オンドカショウ	温度過昇防止器作動	槽内温度が設定されている値を上回ったので、装置は加熱制御を停止しています。(試料および装置保護のため送風機は運転を継続しています。またオプションの自動ダンパー装備時は、ダンパー開度を100%にします。)	槽内に設置されている試料からの発熱により槽内温度が上昇したか、警報値が低めに設定されています。	試料の発熱を減らしてください。また、警報値は槽内の設定温度より約15℃高めに設定してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。

警報種類	警報表示	警報名称	内容	原因	処置
異常	E60 ソウフウキジョウ	送風機異常	送風機回路の過負荷継電器が作動したので、装置は運転および各制御を停止しています。	送風機モーターの過負荷運転もしくはロックです。	送風機モーター冷却のため、しばらく装置の運転を停止してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。
			配電室内の温度スイッチが動作したため、装置は運転および各制御を停止しています。	送風機ボックス冷却ファンもしくは配電室冷却ファンの故障です。	サービスへ連絡してください。
			ベルト破断検出スイッチが動作したため、装置は運転および各制御を停止しています。	Vベルトがはずれているか破断しています。	Vベルトの交換もしくは調整を行ってください。
	E63 ダンパーイジョウ (オプションの自動ダンパー装備時のみ)	ダンパー異常	ダンパーの異常検出回路が作動したので、装置は運転および各制御を停止しています。	ダンパー駆動ユニット回路の異常です。	主電源スイッチ(漏電遮断器)をOFFにしたあと、排気ダンパーメンテナンス用蓋を取りはずし、排気ダンパー部に異物等が噛みこんでいないか確認してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。
	E70 センサーダンセン	センサー断線	槽内温度の検出回路に異常値が入力されたので、装置は運転および各制御を停止しています。	温度検出端の接続不良もしくは断線です。	主電源スイッチ(漏電遮断器)をOFFにしたあと、運転を再開してください。運転再開後も再発する場合、サービスへ連絡してください。

※警報一覧に記載の無い警報表示が発生した場合は運転を停止し、サービスへ連絡してください。

8.4 故障とおもったら?

 警告	
	<p>主電源スイッチ(漏電遮断器)の一次側の処置をするときは、必ずお客様設備の電源開閉器を OFF にして非通電状態で行ってください。また、不用意に通電されることがないように処置してください。</p> <p>電源が ON の状態でトラブルの処置をすると、感電するおそれがあり、非常に危険です。</p>
	<p>配電室カバーを開けるときは、必ず主電源スイッチ(漏電遮断器)を OFF にしてから開けてください。</p>

装置が自己診断できないトラブルや、故障と思しやすい操作ミスについて説明します。
処置を行っても装置が正常に動作しないときは、お買い上げ店または当社にご連絡ください。

内 容	原 因	処 置
 (電源)ボタンを押してもディスプレイが点灯しない	一次側電源が入っていない	一次側電源を入れる
	主電源スイッチ(漏電遮断器)が入っていない	主電源スイッチ(漏電遮断器)を入れる
	ガラス管ヒューズが切れている	ガラス管ヒューズを交換する ☞「ガラス管ヒューズの交換」を参照
設定値の変更ができない	キーロックの状態になっている	キーロックを解除する ☞「コントローラー編 プロテクトを設定する」を参照
温度上昇(下降)時間が長い	試料の熱負荷が大きい	試料を少なくする ☞「運転時の注意」を参照
	外囲温度が低すぎる(高すぎる)	外囲温度を高くする(低くする)
	ダンパーが開いている(閉じている)	ダンパーを閉じる(開ける) ☞「換気しながら運転する」を参照
温度分布が悪い	槽内の風の流れが悪い	風の流れをよくする ☞「試料の置き方」を参照
	試料からの発熱が大きい	発熱を小さくする
	換気量が多すぎる	ダンパー開度を小さくする
温度が不安定になる	換気量が多すぎる	ダンパー開度を小さくする
	外囲温度が1時間に5°C以上の変化がある	外囲温度の変化が安定してから運転を再開する
	発熱の大きな試料の電源が入ったり切れたりしている	発熱を小さくする

内 容	原 因	処 置
温度が徐々に設定温度より高くなる	試料の発熱が大きい	試料の発熱を小さくする
異臭や煙が出る	設置直後は、高温で棚板、棚受が焼け異臭や煙の出ることがあります お客様の試料から出ている可能性があります	故障ではありませんので、そのままご使用ください